

# 令和2年度第2回 土木計画学研究委員会幹事会 議事録

日時：令和2年9月9日（水）16:30～18:00，場所：ZOOM

## 【出席者】

委員長：兵藤哲朗（東京海洋大）

副委員長：白水靖郎（中央復建）、高橋清（北見工大）

幹事長：藤井聡（京都大）

学術小委員会：佐野可寸志（長岡技科大）、土屋哲（鳥取大）

大会運営小委員会：寺部慎太郎（東京理科大）、西内裕晶（高知工科大）、高橋達夫（秋大会開催校幹事、信州大）

委員兼幹事：田中皓介（東京理科大）、小池淳司（神戸大）、松田曜子（長岡技科大）、Jan Dirk SCHMOECKER（京都大）、松本浩和（地域未来研）、泊尚志（東北工大）（議事録案担当）、鈴木春菜（山口大）、伊地知恭右（北海道開発技術センター）、吉城秀治（福岡大）、川崎智也（東京大）、楽奕平（芝浦工大）、岡英紀（計量計画研究所）

## 【議事次第】

### 1. 開会

- ✓ 委員長 挨拶
- ✓ 新副委員長，新幹事挨拶

### 2. 学術小委員会報告

- ✓ 学術小委員会報告 佐野可寸志(長岡技術科学大学)，土屋哲（鳥取大学） .....資料 2

### 3. 運営小委員会報告：土木計画学研究発表会の準備について

- ✓ 大会運営小委員会報告 寺部慎太郎(愛媛大)、西内 裕晶（高知工科大学） .....資料 3
- ✓ 秋大会準備状況
- ✓ 春大会準備状況

### 4. 令和2年度幹事担当タスクの検討状況報告

- ・計画学COVID-19調査、およびCOVID-19ワンデーセミナー（松田・田中） .....資料 4
- ・JSCE パンデミック特別検討会（小池） .....資料 5
- ・土木学会論文集 D4について（藤井） .....資料 6
- ・活動目標・中期目標：○田中、泊、川崎\*
- ・本委員会・全国大会対応：○田中、川崎\*（幹事会セッション報告）
- ・研究小委員会対応：○松本、松田、吉城\*
- ・HP担当：泊、吉城\*、岡\*
- ・国際セミナー：SCHMOECKER、楽\*
- ・国際センター・出版委員会担当：SCHMOECKER、楽\*
- ・ワンデイセミナー・シンポジウム：○泊、小池、岡\*
- ・全国大会研究討論会：小池、○伊地知\*
- ・総務担当：○田中、鈴木\*
- ・財務WG担当：藤井○、松本
- ・防災担当：藤井○、松田 .....資料 7
- ・幹事長補佐：田中、川崎\*（○は主担当，\*は新メンバー）

### 5. その他

- ・日本学術会議主催学術フォーラム・第11回防災学術連携シンポジウムについて .....資料 8

## 【議事】

### 1. 開会

#### ① 委員長挨拶

兵藤委員長より挨拶がなされた。

#### ② 新副委員長，新幹事挨拶

高橋副委員長および新幹事（鈴木幹事，伊地知幹事，吉城幹事，川崎幹事，楽幹事，岡幹事より挨拶がなされた。

### 2. 学術小委員会報告

佐野小委員長より挨拶がなされた。土屋小委員会幹事長より D3 特集号 Vol. 37 の査読結果および Vol. 38 の査読状況（一次判定案とりまとめ中），2020 年度の活動スケジュールについて資料 2 に基づいて報告された。藤井幹事長より学術小委員会に D4 に関する今後の相談について依頼があった。

### 3. 運営小委員会報告：土木計画学研究発表会の準備について

#### ① 秋大会準備状況

- ・ 西内小委員会幹事より秋大会準備状況について資料 3 に基づいて報告がなされた。COVID-19 の感染状況等による都合からオンライン開催に変更する方針が示された。
- ・ 参加者数の確保とプログラムの圧縮について議論がなされた。具体的には 11/13（金）を午後のみ，14（土）・15（日）を終日開催（14 土は午後も活用）の方針で進めることとなった。
- ・ プレナリーセッションについては秋大会ではペンディングとし，幹事会企画（全国大会セッションや COVID-19 関連イベント，MMT 全国討論会等）について計画学 Web 等に適宜アップしておくこと，および幹事会企画情報について秋大会プログラムでご案内（掲載）いただくことが共有された。
- ・ 秋大会を ZOOM 開催とすることについて，プログラムの決定前に先行して案内することが共有された。

#### ② 春大会準備状況

- ・ 寺部小委員長より口頭で報告がなされた。2021 春大会は従来の順番では中国支部（大都市）担当の予定である。しかし 2021 は EASTS@広島が予定されていて広島大学の負担が膨大であることから，その次の予定である東北支部の担当を第一候補とすることになった。
- ・ 東北の場合の連絡先等について泊が状況を把握することになった（幹事会後に幹事長に報告済み）。

#### ③ その他

- ・ 次の秋大会（2021）の開催校について，従来はこの幹事会のタイミングで内諾を得ていたが，今年度は決められていない。しかし，キャンパスの利用可否が新年度にならないとわからない場合がある。

- ・ (2020 秋大会の場合) 2019 年のお盆明けに委員長より打診あり。開催校側の翌年度の学年歴が確定する必要があったため、秋大会の開催日が確定したのは 2019 年 12 月。2019 年度内にキャンパスを押さえておく必要があったことから、仮押さえをしておいた。
- ・ 2021 秋大会会場については、2020 秋大会時の委員会で議論する段取りにすることになった。震災復興 10 年で福島、今インバウンド需要が激減している沖縄というアイデアが出された。

#### 4. 令和 2 年度幹事担当タスクの検討状況報告

##### ① 計画学 COVID-19 調査、および COVID-19 ワンデイセミナー

- ・ 松田幹事より「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」の実施について資料 4-1 に基づいて報告がなされた。第 2 弾以降の調査の実施内容 (第 2 弾@9 月, 第 3 弾@冬) およびデータを広く活用してもらう方策について検討・実施をすることになった。
- ・ 田中幹事より COVID-19 に関する土木計画学研究発表セミナーの実施および論文集の募集について資料 4-2 に基づいて報告がなされた。

##### ② JSCE パンデミック特別検討会

小池幹事より土木学会パンデミック特別検討会の活動状況について資料 5 に基づいて情報共有がなされた。

##### ③ 土木学会論文集 D4 について

- ・ 藤井幹事長より、土木学会論文集 D4 の設立について資料 6 に基づいて報告がなされた。資料 6 で提案された段取りについて WG を立ち上げて推進する方針について提案がなされた。
- ・ 兵藤委員長より、D4 設立の必要性の背景についてご存じでない幹事に、4/1 に実施したシンポジウムの記録についてご覧いただくことを推奨された。
- ・ 兵藤委員長より、D4 立ち上げのタイミングから逆算して必要な手順を整理してターゲットを定めた上で WG を立ち上げるのが良いという点と、D4 のキーワードを整理する必要 (D3 からいくつか削る必要が生じるかもしれない) について指摘があった。
- ・ 高橋副委員長 (前 D3 編集委員長) より、6 月に行われた D3 編集委員会で D3 編集委員に D4 設立について情報提供がなされた旨、報告された。その際に D3 編集委員より F5 (技術者の実践) との差別化について議論があった。ただし政策学を前面に出すことであれば「技術者の実践」とは差別化されるという見解が示された。また編集委員会の中に WG を立ち上げるというのは難しいという見解が示された。
- ・ 幹事会と編集委員会でリエゾンする形で WG を立ち上げる方針について共有された。その際に D3 分冊の編集委員にも協力を仰いで横断的に議論することが望ましいという意見があった。
- ・ D4 の意義について土木計画学の立ち上げの時期の議論との関係付けをする必要について指摘があった。

##### ④ 活動目標・中期目標

特になし。

- ⑤ 本委員会，全国大会対応  
田中幹事より，同日に開催された土木学会全国大会における「幹事会セッション」について報告がなされた．次年度以降の展開について共有された．
- ⑥ 研究小委員会対応
- ・ 報告事項は特になし．
  - ・ 次回秋大会における委員会で活動状況について報告されることが確認された．
  - ・ その他，前回のメール審議等の要確認事項を適宜対応する．
- ⑦ HP 担当
- ・ 報告事項は特になし．
  - ・ 委員会や幹事会の議事録が最近掲載されていないという指摘があった．要対応．
- ⑧ 国際セミナー  
特になし．
- ⑨ 国際センター  
特になし．
- ⑩ ワンデイセミナー・シンポジウム  
特になし．
- ⑪ 全国大会研究討論会  
今年度全国大会の研究討論会の活動が一旦終了した．次回以降に向けて検討を進めることが確認された．
- ⑫ 総務担当  
特になし．
- ⑬ 財務 WG 担当  
特になし．
- ⑭ 防災担当
- ・ COVID-19 関連について冒頭で報告があったとおり．
  - ・ 松田幹事より，避難行動調査の標準化に関する動きについて資料 7-2 および資料 7-1（フォーマット）に基づいて報告・提案がなされた．また，2020 年 7 月の豪雨の調査結果報告の予定および科研費突発災害調査の動きについて報告がなされた．活動内容の速報が秋大会で予定されている．調査フォーマット等については計画学で一つのフォーマットとして共有化する方針である（被災者への調査が重複することを避ける，他の災害との比較が可能になる）．組織については有志という状況である．詳しい内容について，松田幹事から幹事会に提案されることになった．なお，秋大会でもセッション等で議論される見通し．
  - ・ 松田幹事より，交通の断絶について神田先生が調査されている内容もあり，調査フォーマットとしては避難と交通の両方を設けることを，神田先生と議論して進める方針が示された．
- ⑮ 幹事長補佐  
特になし．

## 5. その他

### ① 日本学術会議主催学術フォーラム・第11回防災学術連携シンポジウム

藤井幹事長より、日本学術会議主催学術フォーラム・第11回防災学術連携シンポジウムに関する依頼が土木学会にあった旨および土木計画学研究委員会からの報告事項に関する検討方針について資料8に基づいて報告がなされた。

## 6. 閉会

兵藤委員長より挨拶がなされた。

以上